

平成23年天皇誕生日祝賀レセプション（12月9日）
目賀田大使挨拶（仮訳）

本日は、天皇陛下の御誕生日をお祝いするレセプションにご出席頂き、誠にありがとうございます。天皇陛下におかれては、今月23日に78歳を迎えられますが、本日皆様と共に祝い出来ることを大変嬉しく思います。

2011年は特別な一年でありました。今年一年を振り返るにあたり、先ず未曾有の被害を生じた3月11日の大地震と津波が思い起こされます。しかしながら、我々にとり、今後長く記憶に残る光景は、震災に対し一致団結し尊厳を以て立ち向かった国民の姿であり、世界各地で沸き起こった連帯と支援を表明する方々の姿であります。この場を借り、困難の時に、我々に差し伸べて頂いた連帯及び支援の輪に対し、日本政府及び国民を代表し、改めて心より感謝の意を表したいと思えます。

我が国は震災からの復旧・復興に全力で取り組んできており、野田総理大臣は、災害に対しより強靱な日本の一日も早い再生に向けた強い決意を表しています。第179回臨時国会において、12兆円（約1600億ドル）規模の第三次補正予算が成立しました。また、被災自治体において投資やビジネスを優遇する様々な措置が適用される復興特区法も成立しました。福島原子力発電所も着実に安定化に向かっており、如何なる有害な産品も国内市場はもとより、国際市場にも出ないように、厳しい検査体制が敷かれています。

被災地に対する連帯の印として、本日のレセプションでは、仙台市より寄贈頂いた七夕祭りの飾りを使用すると共に、被災地（岩手県及び福島県）産の日本酒を提供しております。日本の大部分の地域は平常時の状態を回復しており、日本は、ビジネス、留学、観光に開かれております。是非日本を訪れて頂き、各地域の文化に触れ、自然の豊かさを味わって頂くと共に、皆さん自身の目で日本の復興を目にして頂ければと思います。

日本とメキシコは、400年以上に亘る善意に基づく交流の歴史を共有しています。日本にとってメキシコは、1888年に、初めて平等条約（日墨修好通商航海条約）を締結した国であり、1897年にラテン・アメリカで初めて移民団（榎本移民団）が入植した国でもあります。また、2004年に、ラテン・アメリカ諸国の中で初めて経済連携協定（EPA）を締結した国でもあります。

2011年は、日墨間の友好関係及び絆の重要性が再確認された一年でした。

平成23年天皇誕生日祝賀レセプション（12月9日）
目賀田大使挨拶（仮訳）

経済面においては、当地進出日本企業数が増加し、日本企業による複数の大型投資が発表されましたが、これは日墨経済関係の活性化のみならず、右関係に対する我々の信頼と期待を表すものです。本年9月に署名された日墨EPA改正議定書はこの流れをより確実にするものであり、我々は、メキシコ中小企業等に対する技術協力、相互理解の促進、投資環境の改善などを通じて、今後とも日墨経済の活性化を支援していきます。

文化面においても、活発な人物交流、文化交流が行われました。メキシコにおいては、コンサートや展示会など多くの文化行事が開催されました。日本では、中南米を代表するメキシコ人パーカッション・グループ「タンブッコ」が国際交流基金賞を受賞し、また、国際的に活躍されているメキシコ人建築家であるリカルド・レゴレッタ氏が、高松宮殿下記念世界文化賞を受賞されました。この場を借りて、これらメキシコ人アーティストに対し、心からの祝意を表したいと思います。なお、2012年夏には、名古屋市とメキシコ市の姉妹都市関係締結35周年を記念し、メキシコ市の国立人類学博物館にて「サムライ展」が開催される予定でありますところ、ご案内致します。

政治面においては、7月には、横路衆議院議長の招待による、ラミレス（Jorge Carlos Ramírez Marín）メキシコ連邦下院議長（当時）の日本訪問が成功裡に実施されました。また、7月及び9月には、海上自衛隊練習艦隊がベラクルス市とマンサニョジョ市に寄港し、地元市民の暖かい歓待を受けました。

国際場裡において、我々は、気候変動、核不拡散や世界経済の安定といった地球規模課題に対し、引き続き力を合わせて対処します。また、来年メキシコにて開催されるG20の成功に向けて協力致します。

今後とも、両国民の絆をより強固なものとし、両国民の善意というこの財産を益々強化したいと考えています。干支によれば来年は辰（龍）年です。龍は、上昇と力強さの象徴であります。サムライの精神とアジアの龍の力強さを以てすれば、我が国が世界経済の安定を始めとする様々な課題に貢献をすることが出来ると信じます。

最後に、天皇皇后両陛下の御健康と御多幸、皆様方のご健勝、そして日墨両国関係の益々の発展を祈念し、乾杯させて頂きます。

以上